包皮切除推奨時代

ｋｏｄｏｍｏｚｕｒｕｍｕｋｅ

この作品はR18描写を含むため、18歳未満の方は閲覧禁止です。

HinaProject Inc.

注意事項

【作品タイトル】
包皮切除推奨時代

【Ｎコード】
Ｎ５８０１Ｐ

【作者名】
ｋｏｄｏｍｏｚｕｒｕｍｕｋｅ

【あらすじ】
　学会の見解発表を受け、包皮先端の余り部分を取り除くことが推奨されるようになった。それを受けて医療機関や行政にも動きがあった。包皮を切除される少年たちの風景を描く。

第1話　公立小学校（前篇）（前書き）

「ペニスの包皮内には沢山の細菌があり、エイズを含め性病などの大きな要因となっている」
「包皮の中でも細菌がたまるのは先端の余り部分である」
「包皮は幼少期に外的刺激からペニスを守る効果があるが、成長後は病巣でしかない」

2×××年、学会は研究成果を踏まえて上記のように発表した。そして適切な時期に包皮がめくれた状態にすることが望ましいという見解を述べた。適切な時期については意見が分かれたが、概ね小学校高学年の付近が相応しいとされた。

包皮の先端にある余り部分は日々尿にさらされているため、細菌がたまりやすい。たとえ排尿時に包皮をめくってもかぶせた時に付着してしまう。だから先端に余り部分がある場合は取り除くべきと提案されたのだ。逆に包皮に覆われていても亀頭の先端が露出している軽度仮性包茎については治療不要とハッキリ明言された。

この見解が出されて以後、医療機関や行政にも動きがあった。現実的に包皮の余り部分は小学生の大半にある。そして当時、エイズが世界的に再び流行しつつあった。エイズの危険性を減少させるためにも早期の対応が叫ばれていたのだ。

第1話　公立小学校（前篇）

学会の見解が発表されると、男の子を持つ保護者からは公費での包皮切除を求める声が沸きあがった。既に中学生・高校生になった息子を持つ親からも要望が出る有様であった。政府としては国民の声に早々に応えることで人気を取りたかったが、一部の男児にのみ公費を投入することは平等権の観点から反対の意見も強く、また財源が確保できないという問題も生じた。

熟考の結果、小学校4年生～6年生の男児には包皮切除、女児には子宮頸がんの予防接種を無料で実施するということで落ち着いた。時期は3学期修了式の日から1週間の間と決まった。政府の案を採用することにした自治体では医療機関の全面協力を得て、学校ごとに日時を決めて実施した。2月中に対象学年の家庭宛に希望確認の文書が郵送され、わが子に受けさせたいと思う保護者は同意書にサインして学校へ届け出た。

女児の子宮頸がん予防接種は特にデメリットがあるわけでもなく、ほとんどの保護者が合意して娘には受けさせた。一方で男児の方は保護者にとっても悩み深い話である。なぜなら無償で受けられるのは麻酔をしない切除のみなのだ。

包皮の余り部分にラインを引き、ハサミかメスで瞬時に切り落とすというのが無償で受けられる治療であった。コストダウン・時間短縮のためにはこの方法が一番良かった。1人あたり数分で終了す

るのだ。しかし一瞬とは言え、包皮を切り落とされる瞬間は激痛が走る。それを考え、麻酔ありの手術を希望する家庭もいた。

問題は麻酔をかけて包皮を切除する場合は自己負担で３万円、更に包皮を全て切除して亀頭を完全露出させる手術は６万円を負担しなければならなかった。それでも民間で受けるより安いのだが、公立小学校に通わせる家庭の中には家計からして負担が難しい家も多かった。

第2話　公立小学校（後篇）（前書き）

「ペニスの包皮内には沢山の細菌があり、エイズを含め性病などの大きな要因となっている」
「包皮の中でも細菌がたまるのは先端の余り部分である」
「包皮は幼少期に外的刺激からペニスを守る効果があるが、成長後は病巣でしかない」

2×××年、学会は研究成果を踏まえて上記のように発表した。そして適切な時期に包皮がめくれた状態にすることが望ましいという見解を述べた。適切な時期については意見が分かれたが、概ね小学校高学年の付近が相応しいとされた。

包皮の先端にある余り部分は日々尿にさらされているため、細菌がたまりやすい。たとえ排尿時に包皮をめくってもかぶせた時に付着してしまう。だから先端に余り部分がある場合は取り除くべきと提案されたのだ。逆に包皮に覆われていても亀頭の先端が露出している軽度仮性包茎については治療不要とハッキリ明言された。

この見解が出されて以後、医療機関や行政にも動きがあった。現実的に包皮の余り部分は小学生の大半にある。そして当時、エイズが世界的に再び流行しつつあった。エイズの危険性を減少させるためにも早期の対応が叫ばれていたのだ。

第2話　公立小学校（後篇）

都内にある副都心小学校でも3月19日、希望者を対象に包皮切除が行われた。子宮頸がん予防接種を受ける女児は低学年の教室で1人ずつ受けていく。男児のうち、麻酔なしの無償施術を受ける者は体育館に集められていた。そして麻酔あり&亀頭露出を行うものは控室で待機した上、1人ずつ呼ばれて保健室で手術を受ける。この副都心小学校は1学年に男女それぞれ約80人が在籍する中規模小学校である。

初年度は注目もあって希望者が多い。

小学校4年生　：　麻酔なし⇒35人　麻酔あり⇒5人　亀頭露出⇒2人
小学校5年生　：　麻酔なし⇒37人　麻酔あり⇒20人　亀頭露出⇒4人
小学校6年生　：　麻酔なし⇒46人　麻酔あり⇒13人　亀頭露出⇒9人

必修ではないが、これを機会にやってしまおうと上記の申し込みがあった。保護者が一方的に決めた家があれば親子で話し合った家もある。自分も納得して受けることにした子どもたちでさえ、これから受ける施術に不安を隠すことは出来ず、落ち着きなく暗い表情をしていた。

麻酔あり＆亀頭露出を受ける児童、約５０人は１階の会議室が待機所として指定された。体操着姿で集合し、順番が近くなると先生が呼びに来る。保健室に入ると下半身裸になり、ベッドの上に仰向けで寝る。そして麻酔の注射が打たれ、包皮の先端のみ、あるいは包皮全部を切除される。ペニスに直接打つ麻酔であるからその瞬間は痛みがあり、泣き出す児童も多い。それでも麻酔が効いたあとは痛みを感じないのでほぼ静寂な環境が保たれる。麻酔が効くのを待つ時間を含め、先端切除のみなら１０分、亀頭露出の場合は２５分程で終わる。保健室４台のベッドをフル活用し、４人の医師と看護師団が段取りよく動く。

１００人を越える児童が集められた体育館は異様な雰囲気だった。こちらは内科検診で使う仕切りの中に１人ずつ入っていく仕組みだ。体操着を着た児童は仕切りの中でズボンとパンツを膝下まで下ろす。一部の少人数校ではベッドも利用しているが、ある程度の大きさがある小学校では時間とコスト削減を目的として、起立したままで施術していた。医師は児童の包皮をつまみ、出来るだけ引き伸ばす。そして医療用のマーカーを用いて切除ラインを引いていく。あとは医療用ハサミを右手にとり、ラインに従って切っていくのだ。

暴れるとペニス本体を傷つける心配がある。だから直立不動の児童を後ろから教師が羽交い絞めにして、押さえつける。そしてハサミを入れる前には目をつむるよう指示する。中には薄目をあけて始終見ている児童もいるが、多くの子は素直に目をつぶる。そして数秒後、突然体中を突き抜けるような激痛が襲ってくるのだ。ここで泣き叫ばない子はほとんどいない。体がしっかりした6年生の男子児童でも、一番敏感な部分をハサミで切り落とされるのだから悲鳴の１つも当然なのである。それでも教師は容赦なくおさえつけ、医師はなれた手つきで次々包皮を切り落としていく。

各ブースの後ろには数名ずつ順番待ちで並ばせてある。ブース内から聞こえてくる激しい悲鳴に、手前で待機している上級生が泣き出してしまうこともある。しかしここまで来たら逃げることなど許されない。今更どんなに泣こうがわめこうが、ブースの中に入ればズボンもパンツも下げられ、ハサミでバッサリと切られてしまう。1人あたりに要する時間は2~3分であるから次々と作業は進んでいく。全員が包皮を切り落とされた後、校内にはつい数分前まで児童の体の一部であったやわらかく白い包皮が血の付着した状態で多数残っていた。

子どもたちは出血止めの薬を塗ってもらい、別ブースで包帯をまいてもらう。あとは解散となり、すぐに家に帰るものもしばらく休んでいくものもいた。包皮切除が終わった後の体育館は、まるで焼け野原の様に異様な光景であった。